



令和4年1月20日

香川大学教育学部附属特別支援学校

「公開講演会の実施について」

テーマ：身体姿勢・動きの発達的な評価と活用
～発達性協調運動障害(DCD)の評価の視点から～

近年、動きがぎこちない子ども、体の使い方が不器用な子どもが日常生活や学習活動で困難を示すことから発達性協調運動障害(DCD)が注目されてきています。本校ではこのような困難を示す子どもたちの発達を促し、改善を図ることを目的とした研究を進めております。

今回、下記の講演会を開催いたします。DCD研究の第一人者である中井昭夫先生からはDCDの視点からの理解と支援について、学校園での運動あそび、自立活動、体育実践などの研究でご活躍の松原豊先生からは実践に基づいてご講演いただきます。また本学の西田智子先生からは、姿勢や動作に影響を及ぼしていると考えられる感覚処理の特性についてお話いただきます。どうぞお申込みの上、ご参加ください。

1 日時： 令和4年2月23日(水・祝日) 13:30～16:30

2 開催方法： オンライン開催(Zoom) 無料

3 講演

講演1 中井 昭夫 先生 (武庫川女子大学教育研究所・教授) 13:40-14:50

「不器用な子どもたち ～DCD(発達性協調運動障害)という視点からの理解と支援～」

講演2 松原 豊 先生 (筑波大学体育系・教授) 15:00-15:40

「運動が苦手な子どもの体づくり、動きづくり」

講演3 西田 智子 先生 (香川大学教育学部・教授) 15:40-16:20

「感覚処理の特性による日常行動への影響について」

* 講演概要、講師紹介はHPにてご確認ください。

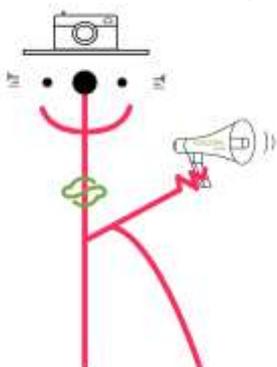
検索：香川大学 身体の動き

4 申込み方法：下記 URL もしくは QR コードよりお申込みください。

URL: <https://forms.office.com/r/IgPp5ZAD1H>



申込確認後、個別に ID、パスワードをご連絡いたします。



- お問い合わせ先
- (公開講演会担当) 多田 守・榎並 浩
- Tel: (0877) 48-2694 / Fax: (0877) 48-0292
- E-mail: tokusimain@kagawa-u.ac.jp

令和4年1月吉日

各位

香川大学教育学部附属特別支援学校
校長 青山 夕夏

公開講演会（オンライン）のご案内



新春の候、皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、近年、動きがぎこちない子ども、体の使い方が不器用な子どもが日常生活や学習活動で困難を示すことから発達性協調運動障害（DCD）が注目されてきています。本校ではこのような困難を示す子どもたちの発達を促し、改善を図ることを目的とした研究を進めております。

今回、下記の講演会を開催いたします。DCD研究の第一人者である中井昭夫先生からはDCDの視点からの理解と支援について、学校園での運動あそび、自立活動、体育実践などの研究でご活躍の松原豊先生からは実践に基づいてのお話をいただきます。また本学の西田智子先生からは、姿勢や動作に影響を及ぼしていると考えられる感覚処理の特性についてお話いただきます。

ご多用中とは存じますが、学校関係の方々をはじめ、福祉等の関係機関の方々や保護者の皆様方にぜひお聞きいただきたく、ご案内申し上げます。

日時 令和4年2月23日（水・祝日） 13:30～16:30

講演会テーマ 身体の姿勢・動きの発達の評価と活用
～発達性協調運動障害の評価の視点から～

講演1 中井 昭夫 先生（武庫川女子大学教育研究所・教授）

「不器用な子どもたち ～DCD（発達性協調運動障害）という視点からの理解と支援～」

講演2 松原 豊 先生（筑波大学体育系・教授）

「運動が苦手な子どもの体づくり、動きづくり」

講演3 西田 智子 先生（香川大学教育学部・教授）

「感覚処理の特性による日常行動への影響について」

申込み方法：下記 URL もしくは QR コードよりお申込みください。

参加費：無料

締め切り：令和4年2月14日（月）

※ オンライン（Zoom）で開催いたします。

申込確認後、個別に ID、パスワードをご連絡いたします。

URL: <https://forms.office.com/r/1gPp5ZAD1H>



問い合わせ：（公開講演会担当）多田 守・榎並 浩

Tel：0877-48-2694 / Fax：0877-48-0292

E-mail：tokusimain@kagawa-u.ac.jp

主催：香川大学教育学部附属特別支援学校

講演概要

講演 1 中井 昭夫 先生 (武庫川女子大学教育研究所・教授)

13:40-14:50

「不器用な子どもたち ~DCD(発達性協調運動障害)という視点からの理解と支援~」

いわゆる「不器用」とは脳の機能のひとつである「協調(運動)」の発達の問題であり、その極端なケースが DCD(発達性協調運動障害)に該当します。DCD は子どもの約5~6%に存在し、自閉症スペクトラム障害や AD/HD など他の神経発達障害に多く併存します。協調は、体育だけでなく、食事、衣類の着脱、書字、文具の使用や楽器操作、遊び、姿勢保持など、子どもたちの学校、日常生活のほとんどの動作に必要な重要な脳機能であり、子どもの認知、社会性、学習、情緒の発達と密接に関係しています。そして、その発達の問題である DCD は子どもたちの自尊感情や自己肯定感の低下、怠学、いじめ、不登校など情緒的・行動的問題、また肥満や生活習慣病など身体的な問題に繋がることが報告されています。本講演では DCD の基本的な理解についてお話できればと思っています。

講演 2 松原 豊 先生 (筑波大学体育系・教授)

15:00-15:40

「運動が苦手な子どもの体づくり、動きづくり」

運動が苦手な子どもは、単に不器用さだけではなく、ボディイメージが未発達であったり、対人関係を結ぶことが苦手であったり、集団活動に対して消極的であったり、感覚面の異常(過敏や低反応)があるなど多様な困難さがあります。困難さの背景は子どもの実態によって一人ひとり異なりますが、子どもの実態を把握した上で発達の原則に従って、ていねいに指導・支援をしていくことが大切です。運動が苦手な子どもの体づくり、動きづくりについて、学校における支援や配慮の具体的な方法について述べます。

講演 3 西田 智子先生(香川大学教育学部・教授)

15:40-16:20

「感覚処理の特性による日常行動への影響について」

自閉スペクトラム症の子どもの中に、聴覚過敏で耳をふさぐ、触覚過敏で手をつながないなどの行動がよく見られる子どもがいます。自閉スペクトラム症の人に限らず最近では感覚情報を受け取り、脳で処理し、行動を組織するという一連の感覚処理に困難さを示す人たちが注目されるようになってきています。感覚には視覚、聴覚、触覚など色々ありますが、それらの感覚処理能力と日常生活における機能的ふるまいをつなげるものとして感覚プロフィールが作成され、近年日本語版ができて報告も増えてきました。そこで、今回本校でも個々の子ども達の感覚処理の特徴について分析し、感覚処理の特徴と学校や家庭での困難さ、その対処について考えていきたいと思います。

講師紹介

中井 昭夫先生

・武庫川女子大学教育研究所/大学院臨床教育研究科/子ども発達科学研究センター・教授

【略歴】

1986年 福井医科大学を一期生として卒業; 1991年 同大学院医学研究科博士課程修了。
福井医科大学小児科助教, 福井県こども療育センター主任医長, 福井大学「子どものこころの発達研究センター」特命准教授, 兵庫県立リハビリテーション中央病院「子どもの睡眠と発達医療センター」副センター長等を経て, 2018年より現職。この間, 1998年から2年間カナダ McGill 大学モントリオール神経研究所 McConnell Brain Imaging Centre 留学, 脳内物質セロトニンとその脳機能画像研究を行う。

【資格】

子どものこころ専門医, 公認心理師, 臨床発達心理士, 日本小児精神神経学会認定医, 日本小児科医会「子どものこころ」相談医 など

【学会活動】

日本発達神経科学会理事, 日本 DCD 学会理事, 日本赤ちゃん学会理事, 日本子ども学会理事, 日本小児神経学会評議員, 日本小児精神神経学会代議員, 国際 DCD 研究学会日本代表 committee, アジア・オセアニア小児神経学会終身会員 など

2017年4月 第1回日本 DCD 学会学術集会 大会長

【社会活動】

2009~2011年 科学技術振興機構(JST)/社会技術研究開発センター(RISTEX)
「脳科学と社会」JCS (Japan Children's Study) 委員会 委員

2010年~ NPO 法人 AOZORA 福井 理事

2018年~ 一般社団法人 笑壺研(ETUBOLAB) 理事 など

【受賞】

2007年 第1回日本母性看護学会 学術論文賞(共著)

2011年 福井大学医学部 優秀論文賞(筆頭)

2013年 日本発育発達学会 優秀研究賞(共著)

2015年 日本作業療法士協会奨励賞(共著)

2021年 日本自閉症スペクトラム学会 実践研究賞(共著)

2021年 日本視聴覚協会優秀映像教材選奨 最優秀作品賞(文部科学大臣賞)(監修) など

【主な著書】

『発達障害児支援とアセスメントのガイドライン』(2014 金子書房)

『いま, 小児科医に必要な実践臨床小児睡眠医学』(2015 診断と治療社:監修)

『データで読み解く発達障害』(2016 中山書店)

『発達障害のリハビリテーション -多職種アプローチの実際-』(2017 医学書院)

『子どものリハビリテーション医学第3版 -発達支援と療育-』(2017 医学書院)

『発達性協調運動障害-不器用さのある子どもの理解と支援-』(2019 金子書房)

『DVD 発達性協調運動障害(DCD)の理解と支援:全2巻』(2019 丸善出版:監修)

『クリニカルガイド小児科 専門医の診断・治療』(2021 南山堂)

『発達障害のある子の感覚・運動への支援(仮)』(金子書房 印刷中) など多数

松原 豊先生

筑波大学体育系・教授

【略歴】

筑波大学附属桐が丘特別支援学校教諭
筑波大学特別支援教育研究センター兼任
こども教育宝仙大学こども教育学部教授 学部長を経て
2017年より現職



【資格等】

特別支援教育士
日本ダンス・セラピー協会認定ダンスセラピスト
日本体育学会アダプテッド・スポーツ科学専門領域評議員
こども家族早期発達支援学会副会長
日本ダンス・セラピー協会理事

【主な著書など】

- 『DVD 障がいのある子どもの運動遊び;全2巻』(2010 新宿スタジオ)
「発達に合わせた運動遊びの指導」(分担)『実践障害児教育 Vol.454』(2011 学研出版)
「ボディワークでよい姿勢と心身の健康を目指す」(分担)『実践障害児教育 2013年6月号』
(2013 学研出版)
『発達が気になる子の運動遊び88』(編著)(2014 学研出版)
「彩られる〈身体〉-身体表現」(分担)『〈身体〉に関する発達支援のユニバーサルデザイン』
(2014 金子書房)
「発達の理解に基づく教育支援」(分担)『障害の重い子どもの授業づくり Part 6-授業の質を高める授業改善10のポイント』(2015 ジアース教育新社)
『特別支援教育時代の体育・スポーツ』(分担)(2016 大修館書店)
「運動遊び・身体表現で気になる子ども」(分担)『発達149』(2017 ミネルヴァ書房)
『教養としてのアダプテッド体育・スポーツ学』(分担)(2018 大修館書店)
『発達性協調運動障害[DCD]』(分担)(2019 金子書房) など多数

西田 智子先生

香川大学教育学部教授(特別支援教育)/香川大学医学部附属病院小児科診療協力医師
香川大学教育学部附属特別支援学校校医

【資格等】

小児科専門医
小児神経専門医

